

2021年度

事業計画書

2021年1月1日から

2021年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

本法人の事業内容は、公益財団法人世界こども財団 定款第3条に基づき、下記の通り定義する。

第3条（目的）

この法人は、日本国内及び世界の国々の中で、さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めている子どもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

- 1 この法人は、前条の目的を達するため、次の事業を行う。
 - （1）被災地の子どもたちや青少年への支援事業
 - （2）子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
 - （3）子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業
 - （4）子どもたちや青少年の自立支援事業
 - （5）前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業については、国内及び海外において行うものとする。

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から9年目を迎え変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員及び保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市・新地町において継続的に支援を実施してきた。
- ・今年度においても南相馬市から継続の要請を受けているため、支援を継続する。3月末まで継続、その後は南相馬市との協議により決定。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。
- ・カウンセリングの概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|---------|--|------------------------|--------------------------------|
| カウンセリング | 福島県南相馬市 | 市内全ての小中学校の児童・生徒・教員・保護者 | 7名体制、各毎月3日間（2021年3月まで）、以降は後日決定 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 ・【実績】 ・2011年度より継続実施 | | |

(2) スポーツ交流

- ・被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、前年度に引き続き子どもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。
本開催要請は、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施する。
- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。
- ・例年1月に実施予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2021年度の実施については関係者と協議の上、決定する。

・ スポーツ交流の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程等 |
|---------------------------|---|---------------------|-------|
| ・ 子どもサッカー大会 ・ サッカースクール | 福島県相馬市 | ■小中学校の児童・生徒 ■青年等 | 後日決定 |
| 備 考 | ・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学等）、学校法人国際学園 ・【実績】 2011年度より継続実施 | | |

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア国：Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

- ・ 2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef からの依頼を受け協議を実施した。
Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。
- ・ 2019年5月に現地を訪問した際、このプログラムの具体的な工程計画について確認を行い、10月には第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始した。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、現地の Unicef 事務所が活動を停止、本プログラムも進行できない状況にあった。2021年度は現地と連携をとりながら、プログラムの再開、継続と発展に向けて協議を進めていく。
- ・ 国連開発計画（UNDP）アフリカ局とも連携を深めており、Unicef との協働実績をもとに、アフリカにおけるプログラム実施を具体化するべく協議を行う。
- ・ Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|-----------------|----------------------------|---------------------------|---------------|
| 現地学校およびコミュニティ支援 | エリトリア国 | Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ | 2019年10月頃より継続 |
| 備 考 | ・【協働者（機関）】 Unicef エリトリア | | |

(2) エリトリア国：スポーツアカデミーの運営支援

- ・ 2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーを開設することにより、エリトリアの子どもたち、青少年に安全な環境で安心な教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技場トラックの破損がひどくその修繕については2018年度に実施済みである。
- ・ 2020年度は、先方のプランが未確定および新型コロナウイルスの影響で現地渡航が困難となったため具体的な支援には至らず、引き続き同国文化・スポーツ庁と協議を重ね、2021年度も継続事業とする。
- ・ スポーツアカデミーの運営支援

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|---------------|--|-----------------|------|
| スポーツアカデミー運営支援 | エリトリア（文化・スポーツ庁） | 首都アスマラを中心とする青少年 | 後日決定 |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟、学校法人国際学園 | | |

(3) ブータン王国：スポーツスクールの運営支援

- ・ 2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより2020年開校予定のスポーツスクールへの運営支援、及び、星槎並びに国内公私立高校視察・調査に於ける調査協力と支援依頼があった。ブータン王国では、特定の競技を早期から取り組み日常的に練習を可能とするスポーツスクールを開設することにより、国際競技力向上及びその安定的な維持の施策の一環として位置づけている。
- ・ また、将来オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を恒常的に育成するために、ジュニア期におけるアスリートの発育・発達に合わせ、トップアスリートとして必要な「競技力」「知的能力」「生活力」の向上を目的として実施する。スポーツスクールを開校することにより、ブータンの子どもたち、青少年に安全な環境で安心な教育を展開、エリート選手の育成、並びにコーチの育成も行う。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。2021年度については引き続き協議の上支援を行なっていく。
- ・ スポーツスクールの運営支援

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|------------|--|--------------------|------|
| スポーツスクール運営 | ブータン王国公立4校選定 | アーチェリー、空手、テコンドー、陸上 | 後日決定 |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、ブータンオリンピック委員会、学校法人国際学園 | | |

(4) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー国におけるスポーツ大会開催支援

- ・ 当該国におけるスポーツ文化の振興・発展に努めるべくスポーツ大会の開催を支援する。
- ・ 支援を実施する大会については、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟及び各関係機関からの要請又は協議により決定する。
- ・ 2020年度は、前年度まで支援してきた各国での大会が新型コロナウイルスの感染拡大により全て中止・延期となった。
- ・ ただし、コロナ渦の中でも実現可能なスポーツ大会の形として、ブータンアーチェリー連盟 (BAF) と協同し二国間をオンラインで繋いだリモートアーチェリー交流大会を、8月と11月の2回開催し、ブータンからは代表チーム選手が、日本からは JOC エリートアカデミー生、日本代表チーム、星槎国際高等学校に在籍するブータン人留学生も参加した。
- ・ 2021年度は、夏季の東京オリンピック・パラリンピック大会に注力しつつ、各国からの現地大会開催の支援要請については個別に検討を行なっていく。
- ・ スポーツ大会開催支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|----------------|---|-------|--------------|
| スポーツ大会 開催支援 | エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー国 | 大会参加者 | 要請或いは協議により決定 |
| 備考 | <p>・【協働者 (機関)】 学校法人国際学園</p> <p>【2019年度実績】 ツアー・オブ・ドラゴン (ブータン) ブータン国際マラソン (ブータン) アスマラマラソン (エリトリア)</p> <p>【2020年度実績】 ブータン・日本リモートアーチェリー大会</p> | | |

(5) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー国におけるアスリートの大会参加支援

- ・ 当該国アスリートの国際大会参加の際の支援を実施する。
- ・ 支援を行うアスリートは、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟及び各関係機関からの要請又は協議により決定する。
- ・ 2020年度は国際大会の多くが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止・延期となった。
- ・ 但、その中でも、本年2月、星槎大学に所属するエリトリア人留学生が東アフリカハーフマラソン選手権出場、3月にはエリトリアの車いすマラソン選手のロサンゼルスマラソン出場の支援を実施した。
- ・ 上述車いすマラソン選手に対しては、大会参加に合わせ競技用車いすの寄贈を行った。
- ・ 直接の大会参加ではないものの、ブータンの射撃連盟に競技用具購入支援を実施した。また、「24時間テレビ」のチャリティ企画の協力を受け、ブータンパラスポーツ支援の一環としてパラバスケットボール競技用車いす5台の寄贈を頂いた。この車いすについては、2021年度に現地への渡航が可能になり次第、ブータンパラリンピック委員会に届ける予定。

・ アスリート大会参加支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|--------------|--|----------|--------------|
| アスリートの大会参加支援 | エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー国 | 当該国アスリート | 要請或いは協議により決定 |
| 備考 | <p>・【協働者（機関）】 学校法人国際学園</p> <p>【2020年度実績】 東アフリカハーフマラソン（エリトリア）、ロサンゼルスマラソン出場支援（エリトリア 車いすマラソン）、ライフル射撃用具寄贈（ブータン）、バスケットボール競技用車いす寄贈（ブータン）</p> | | |

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー国との国際相互理解を図るため、同国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。

上記3カ国については、2020年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ協定を締結しており、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と協働で受け入れを実施していく。

尚、ブータン王国に於いては、2022年北京で開催される冬季オリンピック・パラリンピックの初参加並びに初出場を目指すため、選手発掘から選手育成を行う協働プロジェクトを立ち上げ実施する。

また、スポーツだけでなく異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催や、それらを目的とする学生の短期受け入れも実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2020年度は、新規受け入れは高校生を対象とし、2019年度中に現地で面談等を実施、陸上競技高校生男女4名、バスケットボール競技男子2名の計6名の新規受け入れを決定したが、新型コロナウイルスの感染拡大により2020年度中の渡航が叶わなかった。
- ・ 待機中の留学生については、通信教育の形でレポート等に取り組んでもらい、状況を見ながら1日も早く来日してもらえよう準備を行なっている。
- ・ 2021年度に日本への渡航が可能になり次第、上記6名を招聘する。
- ・ 次年度候補者選定に関しては、後期に実施予定。

・留学受け入れの概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|------|--|--------------------------------|--|
| 留学 | エリトリア国（文化スポーツ庁・陸上競技連盟、バスケットボール連盟） | (継続) 高校生・大学生 5名 (新規) 高校生 6名 | 2019年より継続 新規留学生は渡航が可能になり次第招聘 次年度候補生選定は後期実施予定 |
| 備考 | <p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会</p> <p>・【実績】 高校生：2017年度から継続実施、これまでにエリトリアより5名を受け入れており、2019年度卒業した1名が星槎大学へと進学。 現在高校生3名が星槎国際高校湘南に在籍。 大学生：2017年度に受け入れ開始、現在星槎道都大学に1名、星槎大学に1名が在籍。</p> | | |

(2) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育、または高等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。
- ・ 2021年度も在籍中の星槎大学1名（陸上）、星槎道都大学2名（柔道）、星槎国際湘南2名（陸上）の受け入れを継続する。
- ・ 次期受け入れ留学生については、ブータンオリンピック委員会および各競技連盟と競技の上候補者を選定する。
- ・ 留学受け入れの概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|------|-----------------------------------|------------------------------|-------------------|
| 留学 | ブータン(MoU 締結後ブータンオリンピック委員会と協議の上決定) | (継続) 高校生・大学生 5名 (新規) 後日決定 | 2018年より継続 後日決定 |

| | |
|-----|--|
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学 ・【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本卓球協会、公益財団法人日本水泳連盟等 ・【実績】 2018年度、陸上1名、アーチェリー2名の高校生受け入れを実施 2019年度、星槎国際湘南を卒業した1名が星槎大学へ進学。 同年新規留学生として柔道2名の星槎道都大学での受け入れを開始。 |
|-----|--|

(3) ミャンマー留学生（高校生）の受け入れ

- ・ 2018年4月にミャンマーオリンピック委員会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ協定を締結したことによって、エリトリア、ブータン同様に支援事業を実施、2019年より空手競技で高校留学生の受け入れを開始した。
- ・ 新規受け入れも空手競技高校生を対象とし、2020年2月に現地で面談等を実施した。男女2名の新規受け入れを決定したが、新型コロナウイルスの感染拡大により2020年度中の渡航が叶わなかった。
- ・ 待機中の留学生については、通信教育の形でレポート等に取り組んでもらい、状況を見ながら1日も早く来日してもらえよう準備を行なっている。
- ・ 2021年度に日本への渡航が可能になり次第、上記2名を招聘する。
- ・ 次年度候補者選定に関しては、後期に実施予定。
- ・ 留学受け入れの概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|------|--|------------------------|--|
| 留学 | ミャンマー（保健スポーツ省・オリンピック委員会、各競技連盟など） | （継続）高校生3名 （新規）高校生2名 | 2017年より継続 新規留学生は渡航が可能になり次第招聘 次年度候補生選定は後期実施予定 |
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学 ・【協働者（機関）】 ミャンマー保健スポーツ省、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人全日本空手道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町 ・【実績】 2019年度に空手3名の高校生受け入れを開始 | | |

(4) エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー国の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ

- ・ 2016年にエリトリア国、2017年にブータン王国、そして、2018年にミャンマー国と上記大会の事前キャンプ協定を締結したので、当該国と調整の上、事前キャンプを開催年に向け実施していく。
- ・ 2020年に実施予定であったが、東京オリンピック・パラリンピック大会が延期となったため、実施へ向けて施設面を含め受け入れ体制の整備、準備を引き続き行った。
- ・ 2021年度は、当該国事前キャンプ受け入れ競技に関しては、3月を目途に決定。その後各自治体と合意書を結び、受け入れ体制を整備する。
- ・ 当該国アスリートの出場資格獲得へ向けた支援を実施する。
- ・ 事前キャンプ受け入れ支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 支援日程 |
|------------|--|------------------|------------------------------------|
| 事前キャンプ受け入れ | エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー国 | 当該国のオリンピック候補選手など | 参加支援を継続 事前キャンプは 2021年7月～9月実施 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ場所】 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など ・【協働者（機関）】 各国オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町 | | |

(5) パラリンピック参加に向けての支援

- ・ オリンピックに比して、パラリンピックへの参加に向けた基盤がまだまだ整備されていない側面がある。広く共生社会の実現を目指す上でもパラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。
- ・ 東京大会へ向けてアスリートの育成及び環境整備、出場資格獲得への支援を継続して行う。
- ・ オリンピック選手と同様、各自治体と協働し事前キャンプの受け入れを実施する。
- ・ パラリンピック参加に向けての支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|-----------|--|--------------------------------|------------------------------------|
| パラリンピック支援 | エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー国 | 身体に不自由を抱えている選手 知的障害を抱えている選手 | 参加支援を継続 事前キャンプは 2021年7月～9月実施 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・【受入れ場所】 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など ・【協働者（機関）】 各国パラリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、日本パラリンピック委員 | | |

| | |
|--|--|
| | 会（JPC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町 |
|--|--|

(6) 冬季オリンピック・パラリンピック参加に向けての支援

- ・ ブータン王国の未来を考え、広く共生社会の実現を目指すためにも、冬季オリンピック・パラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。そのため、ブータン王国の2022年冬季北京オリンピック・パラリンピック参加に向けての基盤整備を行う。
- ・ 2022年冬季北京オリンピック・パラリンピック大会初参加・初出場に向けて冬季アスリート選出と育成を行う。そして環境整備、出場資格獲得への支援を実施する。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの影響により現地渡航が叶わず、具体的な支援には至らなかったが、2021年度も継続的に支援内容を協議していく。
- ・ 冬季五輪参加に向けての支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|--------------------|---|-----------------------------|---------------------|
| 冬季オリンピック・パラリンピック支援 | ブータン王国 | 当該国のオリンピック候補となり得る可能性のある選手など | 現地訪問の際の聞き取り並びに調査を実施 |
| 備考 | <p>【受入れ場所】</p> <p>星槎国際札幌・帯広他北海道地区、星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>・【協働者（機関）】</p> <p>ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人全日本スキー連盟、公益財団法人日本スケート連盟、公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟、特定非営利法人日本障害者スキー連盟、一般社団法人日本車いすカーリング協会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本パラリンピック委員会など</p> | | |

(7) 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループで協働のSKYプロジェクトへの参加支援

- ・ 2017年度から実施しているSKYプロジェクトを2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が終了するまでの間、継続して行う。実施時期は、SKYプロジェクト担当者会議で県および市町の要望に応えるよう継続して実施していく。
- 交流内容は、留学生と一緒に駆けっこなど運動や留学生の母国についての紹介をする。また、保護者・地域の方々を交えた料理教室を予定している。
- ・ 2018年度、2019年度ともに留学生と地域の小中学生との交流が大変好評であったが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により学校での交流事業はほぼ不可能となったが、感染拡大以前の1月に箱根町において幼稚園児との交流イベントを実施することができた。
 - ・ 2021年度においては東京オリンピック・パラリンピック大会での各国選手団の事前キャンプ受け入れおよび交流事業をSKYプロジェクトと連携し実施する。

・ SKY プロジェクト参加支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|----------------|---|--|-----------------------------|
| SKY プロジェクトへの支援 | エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー国 | 神奈川県内の主に大磯町を中心とした、保育園、小学校、中学校の園児・児童・生徒 | 実施日程は、SKY プロジェクト担当者会議で逐次決める |
| 備考 | 【協働者（機関）】 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、学校法人国際学園 【2018年度実績】 大磯町立国府保育園、同大磯小学校、同国府小学校で実施 【2019年度実績】 大磯町立大磯小学校、同国府小学校、同国府中学校、小田原市立富士見小学校等で実施 【2020年度実績】 箱根町仙石原幼児学園で実施 | | |

(8) SEISA AFRICA ASIA BRIDGE (SAAB)の開催

- 世界こども財団、学校法人国際学園共催の上記イベントを今年度も継続して開催する。
 目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展するを行っている。
- 2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初のオンライン開催とし、星槎高等学校と JICA 横浜の2会場より全プログラムを6チャンネルで配信した。1日のみの開催であったが、30カ国から約2万人のアクセスがあった。JICA 横浜に全面的に協力をいただいた他、UNDP（国連開発計画）からもニューヨークから参加いただく等、オンラインならではの取り組みを実施した。
- 2021年度においても、オンライン配信の継続をしつつ、状況に適した形で開催する。
- SAAB 開催支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|----------------|--|--------------------------------------|---------------|
| SAAB 2021 への支援 | 国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々 | 来場者および視聴者、またブータンロイヤル・テンプル・カレッジの学生を招聘 | 11月13日、14日を予定 |
| 備考 | 【協働者（機関）】 学校法人国際学園、一般社団法人星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 【後援（機関）】 アフリカ各国の駐日大使館、外務省、神奈川県、横浜市、小田原市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、JICA 他 【実績】 2015年より毎年開催 | | |

(9) ブータンロイヤル・ティンパー・カレッジの学生の招聘

- ・ 星槎大学と姉妹校であるロイヤル・ティンパー・カレッジとの協定に基づき、「STAR プログラム」として短期間の学生の受け入れを実施。日本文化や日本の最新技術に触れ教養を高めると同時に、ブータン文化を発信することで双方の文化理解、友好関係の構築を狙いとする。
- ・ 例年 STAR プログラムは1月に実施しているが、2021年度は新型コロナウイルスの影響で延期とした。日程については状況を見ながら協議を行う。
- ・ SEISA Africa Asia Bridge (SAAB) 時にも学生を招聘する。
- ・ ロイヤル・ティンパー・カレッジ学生招聘の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|---------------------------------------|
| ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生の招聘 | ブータン王国 | ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生、職員 | 【STAR プログラム】 後日決定 【SAAB】 11月 |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 学校法人国際学園 星槎大学 | | |

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

(1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し、孤児たちが将来自立できるようにする。

- ・ 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進める。ついては、職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供を積極的に進め、孤児院及び孤児院自立に向けた支援を継続的に行う。
- ・ 双方との協議を進め、2021年も継続事業とする。
- ・ アグラサーラ孤児院支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|----------|---|-----------|----|
| 孤児縫製職業訓練 | アグラサーラ孤児院 | 孤児院の子どもたち | — |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園 | | |

(2) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、将来孤児院が自律的に運営できるようにする。

- ・ 金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可

欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。

- ・ 2020年度は具体的な支援には至らなかったが、現地関係者との協議を継続しており、引き続き先方のニーズを確認し、2021年度も継続事業とする。
- ・ ミャンマー国内孤児院支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|----------------------|----------------------------------|-----------|----|
| 孤児院の分析および運営・経営候補者の研修 | ミャンマー国内孤児院 | 孤児院の子どもたち | — |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 サマ・タウン孤児院、学校法人国際学園 | | |

(3) アジア地域で、知的発達障害のある子どもとその家族を教育・医療・福祉の面で支援する団体を顕彰し、その活動を激励する（隔年開催）。

- ・ 知的障害のある児童の教育に尽力し、成果を挙げている個人、団体を顕彰することにより、当該活動を支援するとともに、社会的認知を進め、環境改善につなげていく取組みである。
- ・ 支援の概要

| 支援内容 | 支援対象地区 | 支援対象者 | 備考 |
|------------------------|---|-------------|------------|
| Star Raft Award の提供 | アジアの発展途上国 | 教育・医療分野の関係者 | AFID 総会時顕彰 |
| 備考 | ・【協働者（機関）】 AFID(Asian Federation on Intellectual Disabilities) 学校法人国際学園 | | |

V 前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

1 方針

前号 I～IVの目的を達成するために、以下の事業を実施する。

2 事業の概要

(1) FGC ニュースの刊行

- ・ 世界子ども財団の活動を広く紹介し、より多くの理解と協力を得るための広報活動の一環として、「FGC ニュース」を刊行、配布する。刊行した FGC ニュースは新規会員や寄付の募集ツールとしても活用する。
- ・ 2020年度から、よりタイムリーに情報を届けるため、これまで年3回だった刊行を倍の6回とし、2021年度も継続する。

- FGC ニュース刊行の概要

| 事業内容 | 配布対象者と方法 | 備考 |
|-------------|---|------------|
| FGC ニュースの刊行 | 世界こども財団の会員および協力者へ郵送 星槎グループの全国の事業部を通じて幅広く配布 | 刊行：年6回（隔月） |

(2) ソーシャルメディアによる情報発信

- 2020年度より既存 Facebook をより活性化させて、世界こども財団の活動に於ける情報発信を一度に、タイムリーに、そしてより多くの人に広める。
- Facebook に連動し Instagram アカウントを開設。写真や動画など、視覚的な情報発信に特化し、若い世代や女性のユーザーに世界こども財団の情報が届くようにした。2021年度も継続して実施する。
- ソーシャルメディアの概要

| 事業内容 | アドレス等 | 備考 |
|-----------|---|------------|
| Facebook | http://goo.gl/eDCa6W | 2020年度より継続 |
| Instagram | https://www.instagram.com/fgc_seisa/ | 2020年度より継続 |

(3) 世界こども財団活動報告会の実施

- 個人、法人会員をはじめ世界こども財団の活動に賛同・協力いただいている方に対し、「活動報告会」を実施し、協力者への説明責任を果たすとともに、日頃の感謝を伝える場を設ける。活動報告は前事業年度の活動を総括し、新年度の活動方針を説明する。
- 例年1月に開催しているが、2021年度は現時点で多くの人が集まる会の開催が困難であるため、日程は状況を考慮しながら後日決定する。
- 世界こども財団活動報告会の概要

| 事業内容 | 対象者 | 備考 |
|----------|------------------|---------|
| 活動報告会の実施 | 世界こども財団の会員および協力者 | 日程は後日決定 |